

みずほ銀行・シンプロジェンにおける出資契約の締結について ～トランジション領域における出資枠の初号案件～

株式会社みずほ銀行（頭取：加藤 勝彦、以下「みずほ銀行」）と最先端の DNA 合成技術を持つ株式会社シンプロジェン（代表取締役社長 兼 CEO：山本 一彦、以下「シンプロジェン」）は、みずほ銀行によるシンプロジェンへの出資を目的に、2022 年 12 月 5 日付で株式引受契約書を締結し、本日出資を行いました。

みずほ銀行は、2022 年 4 月に 2050 年カーボンニュートラル実現に資する領域（「トランジション領域」）への技術開発やビジネスモデル構築に関する取り組みについて、自己勘定による株式出資枠（※1）を新たに設定し、出資額 500 億円超を視野にその運用を開始しています。

本件は、本出資枠における初号案件となります。

シンプロジェンが有する長鎖 DNA 合成技術（※2）は、「バイオものづくり」産業の創出を加速し、CO₂ を原料とした化学品・燃料・タンパク質等の生産や遺伝子治療薬の開発による根本治療等の実現によって、カーボンニュートラルや治療困難な疾患の治癒といった環境・社会課題の解決と経済的価値の創出に大きく貢献することが期待されています。みずほ銀行は、シンプロジェンの成長を支援し、社会的価値を共創していくために出資をしました（※3）。

イメージ図



シンプロジェンは、2017 年に設立された神戸大学発の合成生物学ベンチャー企業です。独自の DNA 合成技術「OGAB 法」「Combi-OGAB 法」を活用し、超長鎖・高難度の DNA 合成や、多様な組合せの DNA ライブラリーを構築することができます。また、遺伝子治療に特化したバイオファウンドリとして、高品質かつ費用を抑えた遺伝子治療用ウイルスベクターの設計・開発・分析サービスを、神戸 R&D センターにおいてワンストップ・ソリューションで提供しています。

みずほ銀行は、シンプロジェンとの価値共創を通じて日本の「バイオものづくり」の成長に貢献し、日本産業の 2050 年カーボンニュートラル実現を目指します。また、総合金融グループとしての知見を活かし、ファイナンスやコンサルティング機能を通じて、お客さまの企業価値向上や SDGs 達成に貢献していくとともに、多様なソリューションの開発・提供に積極的に取り組んでいきます。

※1：2022 年 4 月 26 日付プレスリリース「トランジション領域における出資枠の設定について」

https://www.mizuhobank.co.jp/release/pdf/20220426release_jp.pdf

※2：長鎖 DNA 合成技術：DNA 断片を“長く”繋ぎ合わせる技術であり、従来技術では正確に合成することが困難な塩基配列を合成することが可能。

※3：2022 年 12 月 9 日付シンプロジェンプレスリリース「第三者割当増資（シリーズ C 1 ファイナンス）実施のお知らせ」

<https://www.synplogen.com/assets/pdf/NR20221209ja-2.pdf>

（ご参考）シンプロジェンの概要

会 社 名： 株式会社シンプロジェン

所 在 地： 兵庫県神戸市灘区六甲台町 1 番 1 号

代 表 者： 代表取締役社長 兼 CEO 山本 一彦

設 立： 2017 年 2 月

資本金等： 23 億 2,568 万円（資本準備金含む）

事 業： DNA 受託合成および遺伝子治療バイオフィアウンドリTM・サービス

U R L： <https://www.synplogen.com>

以 上